

コスモス

—ふれあい宇宙—

NO.2



「眠れる地球人」

G・アダムスキー画

汝自身を知れ	——	1
本	——	2
夜明け前	鈴木 武男	3
不・思・議	小杉 博	4
インプレッション	——	5
反省	中根 豊	6
吾輩は犬である	——	7
所感	中根 豊	10

人間と呼ばれる肉体の眞の英知は、これまで非常に誤って用いられて、見当違いされていたものなのです。実は触感として知られてゐる感覚が眞の英知であり、肉体の魂または生命なのです。人体は——万物も同様ですが——その無機物や元素類が、四種の主要な肉体的表現経路を通じて役立つように構成されてゐますが、一方、五番目の「触覚」は宇宙的なもので、これが他の四つに対して知覚力を与えます。したがって一度この触覚が離れると、他の四つは知覚力または機能を失うのです。人間がこの事実を認めるとき、仮相の背後にある自己の実体を見出し、これがなされるならば長く住んでいた狭い牢獄は瓦解し、宇宙の住人になるのです。そのままで人間は、いかなる物にせよ自分の住む惑星を含めて万物の中に働く法則を発見し、そのときこそ人間は自身自身を知ることによつて人間は万物を知ります。また、それまでは決して

て知らなかった、大宇宙の英知である創造主をも知ることになります。無機物の人間が創造主と一致した状態にまで高まり、創造主とその子が一体化するのは、この認識または理解によるのです。ひとたび地球人がこれを学び、悟つて、心で知るばかりでなく、

汝自身を知れ

私たちがやつてゐるやうにそれを生かすならば、彼らは他の惑星で私たちがもつてゐるのと同じやうな生活の喜びをもつやうになるでしょう。

あなたは地球の同胞の心に、自己を理解することが第一の要件だということを極力印象づけ

る必要が起ります。そこでまず疑問が起ります。

「自分とはだれなのか？」
自分とは外れてしまつたけれども、元の一体性へ帰えるためには、いかなる経路を通じてそれをあらわせるのか？

人間にはつけ加えるべきものは何も無いことを同胞に気づかせなさい。人間はすでに自分が所有してゐるものをあらわしさえすればよいのです。しかし所有してゐるものが何であるかを理解しなければなりません。そしてこの理解を、実行に移す必要があります。重要なのは、実行であるからで、ひとたびこれが達成されると、地球人の苦悩はすぐに消えるでしょう。というの、そのとき視覚、聴覚、味覚、嗅覚の四つの感覚器官を作り上げるのに用いられてゐるこれらの元素類はさらに向上して、それにより各感覚器官がもっと鋭敏な器官になるのです。しかもそれら各器官はいわゆる物質世界ばかりでなく、宇宙的な貢献をするでしょう。

本

鈴木 武男

既に皆さんは読まれた事と思
います。が、立花隆著「宇宙から
の帰還」についての感想を私な
りに書いてみました。

読み終って一番先に感じた事
は、自分も宇宙に行ってみた
いしの一言であり、またアダ
ムスキの宇宙体験が証明され
たともいえるのではないでしょ
うか。特に面白いのは、宇宙飛
行士が同じ様に精神的インパ
クトを受けても一人一人が違
う方、そしてその後の生き方
にもいろいろの違いがあること
である。またいかにも自由の
アメリカらしく英雄的宇宙飛行
士も、終ればすぐに生活を考え
なければ生きていけない事、日
本等ではちよつと考えられない
事である。

内容で特に強く感じた部分を
左記に書いてみた。
ノドン、アイズリは「宇宙か

うは、マイナーなものは見え
ず、地表でちがう所を見れば、なる
ほどちがう所はちがうと思
うのに対して、宇宙からちがう所を
見ると、なるほどちがう所も同
じだと思ふ。同じものの間には
争いがないはずだ。
2、エド・ギブソンは「宇宙か
ら見ると、どの宗教もローカル
だ。それぞれ地域の指導者、指
導原理でも地域でバラバラのは
ずがないと思ふ。もつとロー
カリティを抜きにした共通のも
のがあるはずだと思ふ。くるし
ろ、ジェリー・カーは「宇宙の
中における地球の存在は、人間
が考えているほど大したもの
ではない」ということがわかつて
くる。地球上の生命が最高の発
展段階にあるなどというのは、人
間の勝手な思い込みにすぎない
4、エド・ミッチェルは「宇宙
の文信でシェパードと私の間で
彼が何も言わないのに彼が考え
ていることが直接あつた。」「
いわゆる超能力とは結局、人間
が環境とコミュニケーションする

きに、物質的でなく精神的にコ
ミュニケーションするといふこ
と。精神的に働きかけること
でさうといふことを意味してい
る。そして何よりも大切なのは、
懐疑心を持たず確信してやるこ
とだ。それには、それにふさわ
しい精神の安定と感性の安定を
得ることが必要だ。超能力現象
こそスピリチュアル・ワーカー
の証明で、充分にスピリチュ
アルになりえた人間には超能力が
おのずから生まれる。」「宇宙
は凡人でもコスミック・センス
を持つことができる。何しろそ
こが宇宙だからだ。」「人間は宇
宙に進出することによって、地
球生物から宇宙生物に進化した
人間の地球生物時代は、宇宙生
物としての人間の歴史にすぎな
い。
5、ジョン・スワイガートは「
私は神が存在するとは思わな
い。」「生命が進化したとあり、進
化には一つ方向があると信じ
ている。人間という種が、何億
年に一回あるかないかという進
化史の一大転換点が目の前に

ている。つまり生物はこれまで死の環境でしかなかった大気圏外の宇宙空間に、人間という生物が進化していくのだ。人間の種の内部を画一化がほとんど進んでいるが、一つの種が健全な生命力を保つていくためには多様性が必要で、多様性のためには多様な環境が必要だ。特に健康な環境ではなく、苛酷な環境が必要だ。それなのに地球上の人間の環境は画一的に健康となりつつある。こういう種は種としてひ弱になつていき、いづどんなことが原因で大絶滅が起こるかもしれない。この体験は全人類にわかちあつてもらいたいと願うような体験である。願うというより私はそれが義務だと思つてゐる。この強い義務感が宇宙体験の与えた重要な精神的インパクトの一つである。以上ほんの一部であるが、大変印象に残つた言葉である。そしてアダムスキーも書いてゐる。様によつて人間は他のいかなる方

(4頁に続く)

夜明け前

小杉 博

私はいろんな問題について書いてみたが満足できるものは一つも書けなかつた。
しまいに、だんだん書くのが苦痛になつてきた。しかし書くのをやめたら、私はいい加減な人間だということを見なさんに証明したことになる。

素直に自分の気持ちを書きつづるだけでいいのだとは思つていざ書こうとすると、どうしてもペンが走らない。わけのわからない文章になつてしまふ。自分で自分にあいそをつかす。

目的の一つを考えると、お互いもつと理解し合う為ということだつた。それは自分を裸にすればよくわかりあえるだろうか。しかし人間の感情は、正しいと知りながら、誤ちを平気で犯すいい加減なところがあるのだ。

から、素直に裸になろうとは言えない。

それはともかくとして、アダムスキー氏による宇宙哲学その他を信ずればこそ、私たちは何かをしようとしてゐるのだから、現在までの生活や現在の環境がどうあれ、自分の生活をその目的に沿つて少しづつでも変えていかなければ、むなしい未来が待ち受けているだけだ。

明日のことは明日にまかせるとしても、今日のことは今日やらなければ、明日のことはあさつてでもできなくなる。

自分の今しなければいけないことが、不可能に思えても、不可能だと言つてしまつたら不可能になつてしまふ。
不可能そうにみえても、最善をつくすだけで、不可能が可能になることはよくあることである。

それが信念の法則ではないだ

ろうか。

しかし実際の体験を通してのみ、その法則は理解できるのだと思われる。

だから、いかなる法則でも、自ら積極的にいろんな機会を生み出して理解に努めなければ、魂は向上することができない。

なぜ魂の向上が必要なのか、魂が向上すればどうだということかと言う人もいるかも知れない。もちろん、私はわからない。わからないから、学ぼうとしているんだと答える。あるいは学びたいから学んでいるんだと答える。

人と行動をともにする時は互いに相手のことをよく知っている方がいいが、まず信頼しようとする気持ちになかったら、決して理解は深まらないし、冷たい関係がつづくだけかも知れない。

私自身は誰とでも新しくなる

ことを望んでいるし、また自由であたたくて、そよ風のような関係を望んでいる。

世の中にはたくさん誘惑があつて、真理に向かうとする足をひっぱるが、最大の強敵は自分自身であつて、くじけたからといって責任を他に転化するようでは、せつかくつかみかけた進歩の糸口さえ、いつしか見失ってしまうかも知れない。

結局自分の魂の向上に役立たないと思うものは、すべて捨てるところからはじめなければ、現状からは抜け出せないと思うのは私だけだろうか。

蛇は脱皮し、蝶は羽化して大空をはばたく。人間も殻を破らなければ、宇宙の住人にはなれない。

(完)

(三頁の続き)
法によるよりも早く自然の法則を知るでしよう」

(完)

不・思・議

……台風は全火星世界で、年に一回発生することが地球からの観測で知られている。台風が起ると、その雲は赤道を越えて全世界へ拡がり、火星全体が雲に覆われて、外部にある地球からは、火星表面の地形も運河、その他の模様も全く見えなくなることもある。

太陽から遠く極寒の世界で、しかも大気が地球表面の百分の一以下の、真空に近い大気であるにもかかわらず、このような猛烈な台風が発生することは不思議という他にない。
火星とは反対に大気が地球より百倍も濃いの金星



「かつて私も遠い昔地球に住んでいたとき多くの習慣を持っていた。しかしついに勇を鼓してこの障壁に立ちむかい、自分の生活を変え始めたのです。これは肉体を支配していた悪習であつたばかりでなく、利己的な考え、嫉妬、報復等の習慣でもあつたのです。その当時すでに私は永遠の生命と、より大きなレッスンを学ぶための別な世界での生まれ変りとを信じていました。そのとき私が気づいたのは、唯一の方法は、私の心が反乱を起こしたならばそれを沈黙させること、もつとうまく言え、自分のエゴと感情とを抑制することであるということでした。これを自動的に行なうことによつて、私はイエスの教えた原理に従つて行動し始めたのです。これは万人が何はおいてもそうするように教えられてのことです。これは容易なことではありませんでした。次に困難

な仕事は良き考えを実行に移すことでした。最初、心はあまりに威張つていて、みずから降服しようとはしません。ですから私たちは自分自身または自分のエゴを征服する人間になる必要があるのです」

「私たちはみな互いの想念を読み取ることができません。それは肉体と心をリラックスさせることを学んできたからです。ところが自然の能力と才能にほとんどの注意を払わない地球人にとつてそれはまったくむづかしいことです。あなたがたはあまりに心配しすぎるし、一日の九十九パーセントは利己的な想念をいだき、テレパシッフな印象に對して心を閉じています」

「あなたは花の成長ぶりを調べたことがありますか？ 芽として始まつて次第に大きくなり、やがて花が咲きます。今開いている花があつて日ましにゆつくりと開いてゆき、ついにその殻を光の中に広げます。」

である。地球の近くにあり、大きさも地球と余り変らないう火星と金星の世界が、これほどまでに互いに遠つていふということは不思議といふ他ない。大きさが地球と同じくらいで、地球よりも太陽に近い温度の高い金星世界が、これほど濃い大気を持つていふことも常識判断とは反対になつていふ事実である。金星の上層大気が、自転よりずつと早い速度で、自転と同じ方向にまわつていふことも不思議といふ他ない……

京大名譽教授

宮本 正太郎

人間の過去世の記憶もこれと同様です。それは非常にゆつくりと展開するのです。しばしば人間は特殊な環境下にいなければならないことがあります。すると突然、本人は自分が見る物との親しい關係を感じることに

あります。これが記憶です。この現世においてまだ互いに会ったことの無い人々が突然自分の内部に次のような感じを受けることがあります。

「へどういうわけか、われわれは互いに知り合いのような気がする。」

たぶん兩人は各自の親類よりも親密に感じるかもしれません。これも記憶がよみがえっているのです。なぜなら、その場合二人は前世で互いに知っていたからでず。そうでなければ以前に会ったことのない他人が自分にとつて親しい人だと内奥から感じられるわけがありません。

他の惑星では人々は幼時からこうした記憶に気づくように教育され、平和な束縛のない生活によつて気苦労のない生涯が保障されていきますから、だれでも過去世をうまく思い出せるのです。これがバイブルに述べられている永遠の生命の秘訣です。地球にも自然の法則と活動の謙虚な観察者になることを知っている少数の人がいます。この人

たちは自分の自我の心を侵略的に短気にさせないで、ときには多忙を要しながらもゆつくりと着実に自分の生命のピクチャーパズルにあてはまる記憶の断片を集めています。もちろんこの記憶は宇宙的なものとして認められて、個人がその記憶から利益を得ようと思えば、それを受け入れねばなりません。」

(完)

反省

中根 豊

私は今ここに、今まで自分が示してきた同胞に対する懷疑的な態度や発言を全面的に撤回し、自分の傲慢さを深く反省する。

誰も他人の言動を非難することとはできないし、何の確証もなくその真偽を断定することはできない。同胞の報告したUFOM目撃体験やフラーズとのコンタクト体験が真実であるならば、私たちにしてもそれは大いに

勉強になる出来事であり、価値ある体験である。それはアダムスキーの体験に匹敵するような性質のものかもしれない。

その体験が真実であるならば、私たちの学習や実践に何らかの改良が必要である。その体験が進歩、向上の路上に存在するものであるならば、私は現在自分が歩んでいる道を再検討し、必要ならば何らかの修正、あるいは完全な進路変更をせねばならない。

残念ながら、私には真実を見抜くだけのテレパシクな感覚がまだない。それゆえ、同胞のそれらの体験に対して真偽の判断がつかない。だから少なくとも私にできることは、同胞の体験に対して無責任な言動を避けることである。そして先づはそれを謙虚に受け止めてみることである。それは同胞が支持している、または信じている真理や事柄においても同様である。

(完)

吾輩は大である

吾輩は、ある本屋に飼われている雑種のオスで、四才、名チビである。犬仲間では一寸した美男子？と自他共にゆるしている。大変幸いの事に家の人は吾輩を家族の一員として可愛がってくれるので充分満足している。他人が見れば過保護と言うだろうが、確かに仲間から羨ましがられている。

したがって吾輩は家族の人達の心の動きや想念等、まるで我が事のように手に取る如くはつきりわかる大変テレパシクな犬なので、家に来た人達やGAP会員の皆様方が月例会で話した事なども皆わかっている宇宙犬とも言ふべき犬であるので、今後吾輩を通じて特に御主人様（以後、彼と呼ぶ）の行動や想念等を紹介していくつもりである。

彼はだいたい午後四時頃になると、一年三六五日、雨でも雪でも風の日でも正月もお盆でも

必ず散歩に連れていつてくれる。吾輩にとつて一日の内が一番楽しい時でもあり、彼も健康上大変良いと思つていたので、十分程離れた馬淵川の川原を約一時間、そしてその時は彼にとつても、自分の想念をチェックし反省したり、宇宙哲学について考へたりしながら春夏秋冬自然の移り変わり等を観察する時でもある。

今回は彼が最近考へている、また十二月の月例会の時にも話題となつたGAP活動について彼の想念を感じ取つた事を書いてみよう。

GAP活動のGAPの意味について本来は、知り合いになる運動、なにか、知らせる運動、と解するののかという問題であるが、これは字句の解釈というところではなく、あくまでも宇宙哲学の内容を考へてみれば、ブラザーズがアダムスキーを通じて地球人に宇宙の諸法則や原理等を知らせなさいということであり、またアダムスキーはその為にGAPを世界中に作つたとい

う事に尽きると私は思います。ただ問題は、その知らせ方にあつたのではないのか？確かに青森支部に於いても映画、スライド、またはラジオ等を通じて、また個人的には自分に接した人達に、友人知人に話し、本を読ませる等の方法を充分とはいえないが行つてきたが、その効果は無い、等しい程である。信じられない自分に関係がない、自分のことだけでいふばいだ等の理由で、それほどに地球人はエゴに固まり切つていゝるというべきであろう。

ただ、これらの結果だけでは縁なき衆生、カルマが無い人には無駄であるというようには考へたくない。宇宙の中には特別扱いが無いのと同じ様に、私達も何らかの機会によつてこの宇宙哲学を学ぶ事を知つたと同様に、多くの人々にその機会を作るといふことは大変重要である。と同事に、地球人のことはやはり地球人たる私達の手で修正する義務がある筈で、ブラザーズは援助はしてくれらるだろうか、

それにおんぶだう。こしてはいけない事である。

ここで考える事は、問題はいくらで考へる。側にあるのではない。知らせる。側にあるのではない。かという反省である。自分自身。が本当に宇宙哲学をどの程度理解しているか？である。なるほど出版された本はすべて読み。月例会、大会には必ず参加し。テ。プを聞き、話し合いをして。何年も勉強してきてはいるが、生活の中に実行されてはいない。例えば。想。念。観。察。が。大。変。重。要。な。事。だ。と言われている。でも、それすらも。なかなか実行しなかつたり。続けなかつたりしている。初めて読んだ時の様な感激が少なくなり。寝食を忘れて実行する程の情熱もないという様なことで、果して他人に話して相手がわかるだろうか。恥しいかぎりである。つまり。自分。の。血。と。な。り。肉。と。な。つていない。消化不良のため。充分消化し深い理解ができていないからなのである。もしも充分に自分のものとなつていれば、おのずからその人の行動や考えは常識的で、謙虚で寛容であつた。

たかく、親切で、誠実で、何よりも今現在生きていく事が、楽しくて感謝でいっぱい。の。毎。日。を。生きていく。その様に自然となつてくるのではないだろうか。自分の事より他人の事、特に全。体。の。事。に。自。ら。関。心。が。高。ま。り。、世。の中。の。あ。り。方。に。も。他。の。人。の。不。幸。や。痛。み。悩。み。も。自。分。の。事。の。様。に。思。われ、その事の解決に懸命になる。その様な人がいたら誰でも進んで親しくなりたいと思ふ。あの人の言うことだから間違いはないという信頼と尊敬があつて始めて、知らせる。ことが自然とできる。丁度。ア。ダ。ム。ス。キ。ー。が。世。界。各。地。に。招。か。れ。て。講。演。に。行。き。人。々。に。話。を。し。た。よ。う。に。その時はじめて大きな反響が生まれるのではないだろうか。先ずは自分がその様になるべく。日。々。の。レ。ッ。ス。ン。と。大。い。な。る。想。念。を。持。ち。、その積み重ね以外にはないのだと想いながら、雪の川原を散歩している彼を吾輩は。グ。イ。グ。イ。引。張。り。な。が。ら。帰。る。道。す。が。ら。空。に。は。カ。マ。の。よ。う。な。新。月。が。寒。々。と。西。の。空。に。見。え。、あ。た。

りは段々と暗くなつてきた。

* * * * *

今日は朝から水道が凍結し、最高気温もマイナス五・六度にもなるという寒い日であるが、それでも嚴重に防寒服を着て彼と散歩に出かける。馬。淵。川。は。一。面。に。凍。り。人。が。歩。い。て。対。岸。に。行。ける程で、土手の上は北風がうなりさずがの吾輩もフルエル。足の指の間に雪がたまり氷となるので歩くのが困難になると、彼が指の間に入つた氷を取つてくれる。

前回、GAP活動は知らせる事であると書いたが、今回はその続きである。月例会で久保田会長のテープを聞いて彼は何かハツとした様である。地球人達はまだ眠つていて目覚めていない、いろいろ活動している様にみえるが本来は眠っている。會長は、GAP会員は目覚めてい。ると言つていたが、他人はいざ知らず、自分は未だ眠っているという事にあつたため気がついた様である。

覺しているか、毎日知覺しながら生活しているかと思つた時、愕然とし未だ自分は眠っている。本當の意味で生きていないのだ。なあと痛感したのである。

自分が目覺めてもいないのに、知らせるゝ事によつて他人を目覺めさせる事ができる訣はない。つまり何を知らせるゝべきかがわからないうでただ知らせなければと頭の中だけで考へていた。これでは他人がわかる筈がない。何もフラザーズの事や宇宙の事等を話す必要はない。人間にとつて一番大切な生命がどのようなもので、肉體が動いて日々生きていることの原理、理由をいかに自分を通して表現するか、する事が結果的に知らせていることになるのだと思つた時、「自分自身を知れ、そうすれば總ての事がわかるだろう」という言葉が一寸わかつた様な氣がしてきた。

家を出る時は嚴重な防寒服を身にまとつて出て来たが、帰りは雪の中を歩いてきたせいで暑くなり汗ばむ程になり、冷い風

も何か心地良く、ツルツル滑る道を吾輩が引つ張りながら帰つてきたのである。

宇宙からの訪問者の中へ特に左の様な言葉が私には重要に思えた。

1. 友よへアダムスキー、地球にはなすべき仕事が大山あります。人類は飢えています。先づそれを救う必要があります。永い時代を通じて地球上に拡がっている無知という暗黒の中で人類が滅亡しないようにあなた達は地球へ帰ってこの心の糧をわかれ手えなさい。
 2. 彼等へスペースフラザーズ、私が私に切望することは、彼等の持つている知識を地球のすべての同胞に伝えてくれということである。私はこれを実行するつもりだ。信じるか信じないかわからない。偉大な知識を授けられるか、または疑惑と嘲笑の中に葬り去るか、それは各自に任せよう。
 3. 無限の法則を追求しようとする少数の人々は、他の人を導く

かねばならないのです。そうすれば私達もその人々を助けるつもりです。
 4、今までにあなたが得た知識は地球人にとって非常に価値あるものです。話したり、書いたりにして彼等に告げなさい。
 5、次の真理を地球人に知らせなさい。「神は遠方にいるのではなく万物の中に、人間の自身の中に実在する」

(完)

所感

中根 豊

……どうか言葉にとらわれずに読んでください……

透視、透聴、予知……これらいわゆるテレパシー能力を持つ人々を、私たちは「特殊な人々」と見ていないでしょうか。普通々の自分たちから見て「特殊」と。

しかし、テレパシーは……

「テレパシーはあらゆる生きものに本来をなわっている自然の能力であって、これにより自分のフイーリングを他のすべての生きものに伝えることができます。」

自然界はまちがいになくこの法則に従っており、一つの統一された全体として現象界を表現させるために、万物は自分自身を惜しみなく与えています。

人間とは活動する想念体です。しかし理解力の乏しさから、さまたまのゆがみを引き起こし、そのために現在いたる所に見られるような大混乱が生ずるようになりしました。人間は働くための道具をいろいろ持つていますが、無我の自己表現というものと大きな分野で人間に奉仕する力を持つという自覚は失ってしまいました。

……ということは、テレパシー能力がある人が「普通」なのです。そしてそれがない私たちの方が「特殊」というよりも「異常」なのです。犬も猫も鳥も花や木も、みんなテレパシー

能力を持つているのです。そして当然のことながら、同じ創造主によって創造された人間もそれを持つているのです。しかし、現実にはそれを使用することができない。

私たちは宇宙の意識と心の一体化によって、そのようなテレパシー能力が発現することを知っています。ならば、それが発現していないということは、私たちはその一体化ができていないということになります。それは認めなければなりません。ということは、私たちの心は一体化どころか、コントロールもされず、好き勝手にエゴをふりまいているという事です。未だに、エゴに支配された精神労働者なのです。

宇宙の意識と心の一体化は、ク「一体化できた」というような気分的な性質のものではありません。それは、実際の精神的肉体的変化なのです。その変化の現われのひとつとして、テレパシー能力が発現するわけです。能力というよりも本来の正常な

状態を取り戻すのです。そしてそのときはじめて、万物が一体であることや生命が永遠であること、自分の正体とその目的、そして創造主を認識できるので

しかし、この体験を得るのは容易ではありません。なぜならば、セツかく発現したこのような能力、人間本来の状態は、エゴを抱くことによってその段階で停滞するか、ほとんどの場合は低下してゆきます。それだけに、この人間本来の状態を持続させるためには、エゴに支配されないよう、常に自分の心をチェックするといふ不断的の努力を要します。

この真自我を知る方法、あらゆる生命体のあいだで行なわれているコミュニケーションを理解する方法は、ご承知のようにアダムスキー氏の「生命の科学」テレパシー開発法に実に詳細に説明されています。読んでそれを実践するならば、私たちは確実にそれを得るでしょう。しかし、厳正に評価して、未

だに人間本来の状態を取り戻していない私たちは、いったいそれらのテキストから何を学んでいるのでしょうか。宇宙哲学とは何なのでしょう。そして私たちは、GAP活動と称して、いったい人々に何を伝えようとしているのでしょうか。何を教えるようとしているのでしょうか。いったい私たちは、一般人にはない何を持っていて、い

車を運転される方なら、次のたとえが理解できると思います。私たちは交通法規や運転教本を読んだからといって、そのまま車に乗り込んで公道を走ることができるでしょうか。もちろんできませんね。しかし、今の私たちの状態は、本を読んでは勉強したから運転できるかと思いついています。または、いつかは運転できるようになるか。そして、それだけでまるで自動車学校の教官になったようなつもりで、他の人々にも運転方法を教えようとしているのです。果たしてそれは可能でしょうか。

アダムスキー氏の著書は、その交通法規や運転教本のようなものです。私たちはその内容を、実際に乗車して応用、実践しなければなりません。もちろん最初は思いうようにゆきません。これでもいいんだろうか。本当に自分は運転できるんだろうか。と不安や挫折感が起ります。しかし絶ゆまめ努力の末、私たちはいつしか自由に快適なドライブを楽しむことができるようになります。そうしてはじめて、他の人々にもその運転方法を、その素晴らしさを教えることができるのです。

「あなたがいかに多くの書物を読もうとも、いかに多くの宗教を遍歴しようとも、いかに多くの講座や教師につこうとも、放蕩息子がやつたようにやらないければ、これらは何にもなりません。真理をもたらしません。自我のプライドを死滅させて、謙虚さと意識の意志の中に生まれかわりなさい。」

「所感」を書いてある時、
「松山支部報」37号が届きました。
た。その中に「テレパシー開発」
年」と題する、静岡支部代表・
野口敏治氏の素晴らしい記事が
掲載されていました。ここに、
その一部を抜粋紹介します――

* * * * *

今年もまた新しい目標をたて、
伊藤支部代表を中心として宇宙
の道をスタートされたことと思
います。静岡支部も今年も「ス
ペースシップ・スペースアラザ
ーズ」のコンタクトをしてイメ
ージパワーの強化にテーマに
かかげ元気にスタートしました。
今年も共に頑張つてゆきましょ
う。

今年は、静岡支部のテーマの
ほかに、私個人としてもいろいろ
とやりたいことが沢山ありま
すが、やはり重要項目の「トッ
プ」は、「テレパシー能力の開発」
ということになります。
アダムスキー氏は、「進歩し
ようと思えば、テレパシーによ

る理解と伝達こそ最重要な事
です。宇宙開発の知識の分野で
人々を守ろうとする人にとつて
別な最重要事はテレパシーであ
る。このようにテレパシーの重
要性を強調しております。私産
は日本GAPの会員として、ア
ダムスキー氏の教えを多くの
人々に知らせる運動を展開し、ス
ペースプログラムの旅行為の
援助協力をしておりますが、こ
れらの運動に全面的に協力しよ
うと考えれば考えるほど「テレ
パシー能力」が絶対に必要とな
つてきます。
ではどうすればテレパシーの
能力が身につくでしょうか？
：ここで少し考えてみました。
能力を新しく身につけるのでは
なく、私産は生まれた時からそ
の能力は身につけていたのです。
年令を重ねるにつれて地球の想
念に染まりテレパシー能力を発
揮する場をなくし、その能力は
退化していつてしまったのです。
何事もそうですが、常に使用し
ないでいると退化してしまいま
す。

テレパシー能力の開発には、
まず「人間誰れでもテレパシー
能力が潜在している」というこ
とを認識すること。次に、私産
の肉体を十分に理解すること（そ
たとえば細胞の働きなど）、そ
して感覚器官（目、耳、鼻、口）
のコントロールをすること。こ
れは想念観察を実践し徹底的に
コントロールする。このように
自己訓練を充分に行なう。それ
と同時に、自分の関心を、この
地球上のことだけに持つのでは
なく、心を開き、宇宙的な方面
に多くの関心を持つことが必要
となつてきます。

（以下省略）

